

「 土砂災害から身を守るために 」

滋賀県 大津市立日吉中学校 2年 河合 咲帆

私は生まれてから今までずっと滋賀県に住んでいます。滋賀県には海が無いので津波も来ませんし、比較的災害が少ない所だと言われています。実際、私も今まで大きな災害被害にあった事はないのですが、少し前西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨が降り、各地に大きな被害をもたらした。この「西日本豪雨」では具体的に 15 府県で 200 人以上もの人が犠牲になられ、12 府県で一時最大 27 万戸近くが断水した。また、医療機関など命に直結する施設でも断水は切迫した問題となりました。

私が住んでいる地域では、ここまで大きな被害は無かったのですが激しい風と雷雨と停電などが起こり、私の家では約 1 時間ほど停電していて、食事中だったので真っ暗になってしまい、とても怖かったです。ですが、こういう時のために家族が用意してくれていた懐中電灯のおかげで食事を続ける事ができました。私の自宅のすぐ後ろは山がとても多いので山がくずれないか、すごく怖かったです。近くの地域では避難している人達もいてこんな体験はあまりした事がないのでとても不安でした。

しばらくして、ニュースで他の府県の被害を知りすごく驚きました。土砂崩れや河川の氾濫がひどく、多数の死者や安否不明者が出ており、救出活動が続いているといったニュースがとても多かった。こんなにも大きな被害が出るなんて誰も予想できないなと思いました。

そして私はもし身近でこんな災害が起こったら、どのような対応やまた、対策をすれば良いのかを考えました。私が住んでいる地域は周りに大きな川があったり山があったりするので土砂災害について詳しく考えてみました。まずは避難することが大事なのではないかなと思いました。そのためにも、避難する場所、そこに移動するための経路、そして家族との連絡方法について家族で話そうと思いました。避難する場所が決まっていなかったら、家族みんなが無事にいるか確認ができないし、移動する経路がもし土砂が崩れて通れなかったら、また危険だったら避難場所に無事にたどりつけない。そして連絡がとれなかった場合、もし家族みんながバラバラの場所にいたら、その時のお互いの状況を知ることができないためと、この三つのことについて改めて話して気づく事もありました。例えば携帯電話などを持っていない妹とはどうやって連絡をとるのかという事や避難の時にそなえて、どんな物を用意しておくかという事です。家にある防災グッズをよく確認してみると、食べ物は賞味期限がきれてしまっていたり、6 人家族なのに数がたりてなかったりと全然しっかりした準備ができていませんでした。食料は生きていくのに絶対に必要だと思うので、消費期限や賞味期限をしっかりチェックしておいて、いつでも持ち出せる場所においておくようにしようと思いました。またこういった防災グッズを入れる持ち出し用のカバンは、リュックや肩掛けなど両手が空くものがベストだという事も調べてみてわかりました。なぜ両手が空くものが良いのかというと、運び出すものがある時や、一人では避難できない子供やお年寄りを連れていくときに両手が空いてないのは不便だからです。私も、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に住んでいるので、避難するときちゃんと手助けしてあげられるようになりたいと思います。

きっと、実際に土砂災害にあったら、どんなに入念に準備していても思う通りにすすむ事は体験した事のない私にはないと思います。焦ってしまって何もできなくなってしまうのではないかなと。ですが、もしもの時の事を日ごろから考えたり、梅雨の時期などにはよく土砂災害の事がニュースで取り上げられたりしているので、そういったもので情報を得て、知識を身につけておく事も重要ではないかなと思います。私がニュースで知った事は、土砂災害には前兆現象があるという事です。雨の降り方がいつもと違ったり道路が冠水していたりすると土砂災害発生の危険性が高いということです。災害時は、とっさの判断ができず、正しい行動ができない場合があるので落ち着いて行動できるようにしたいです。

何があっても自分の命は自分で守らないといけないという事が改めてわかったので、毎日を、楽しく慎重に生活しようと思いました。